４　確かな学力・学びに向かう力の向上のために

＜鳥取県学力向上推進プラン＞

平成１９年度以降の全国学力・学習状況調査結果の推移、児童生徒質問紙調査の結果等の分析から明らかとなった課題の解消に向けて、県教育委員会と市町村（学校組合）教育委員会が連携し、学力向上施策を総合的に推進していくためのプランとする。

なお、本プランは令和２年度から令和５年度までの学力向上施策を推進していくためのプランとし、取組状況について県教育委員会や市町村教育委員会で情報を共有するとともに、令和２年度以降も学力向上推進プロジェクトチーム（ＰＴ）を継続設置し、Ｒ（リサーチ）－ＰＤＣＡサイクルを回しながら、プランの進捗状況を随時点検、検証、改善していく。

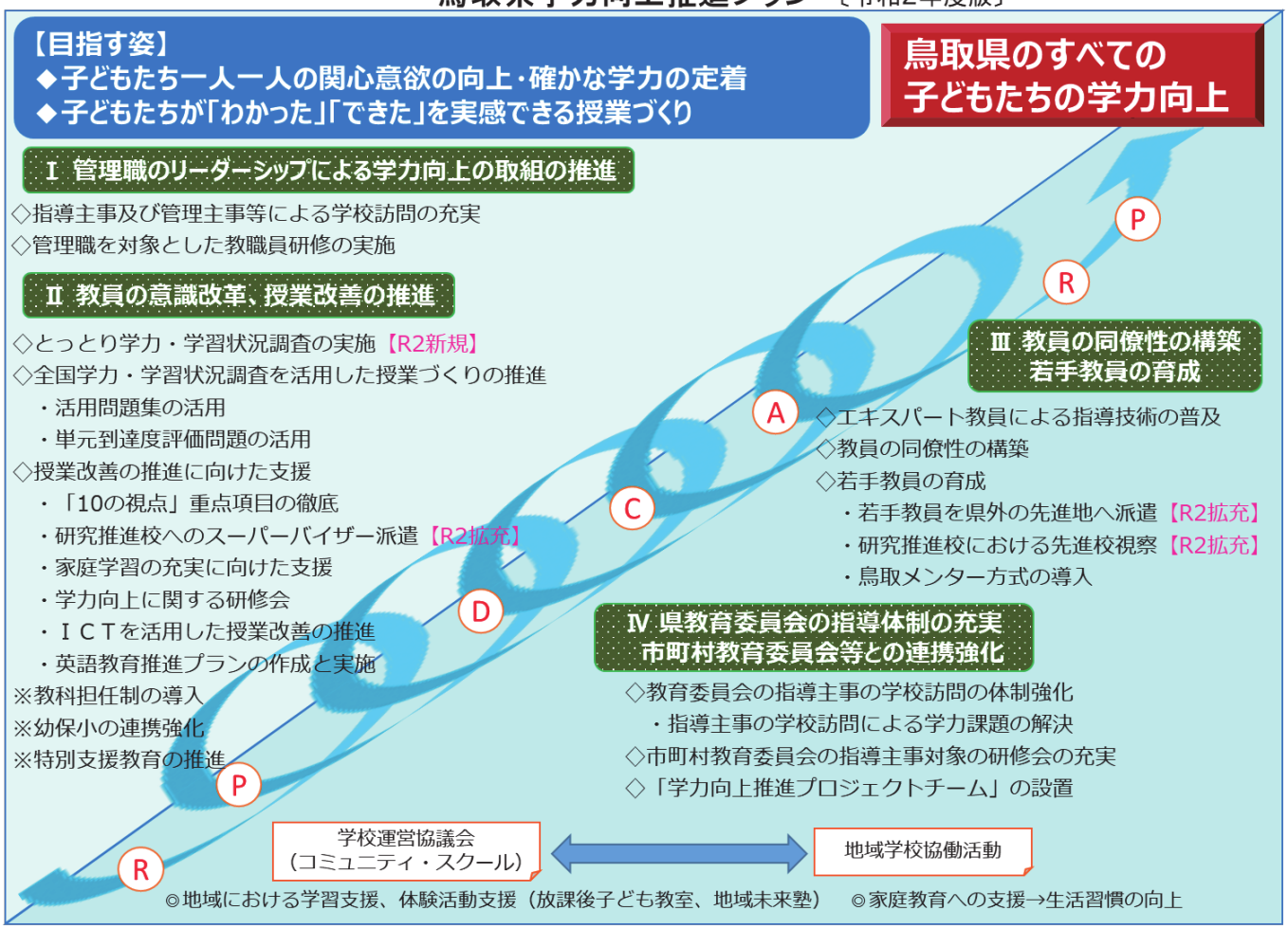
目　的

学力向上推進PT・学力向上推進ワーキンググループ（WG）会議での意見を踏まえ、鳥取県の「教育に関する大綱」、鳥取県教育振興基本計画を基に学力向上に向けた中長期的な方向性と具体的な方策を示した「鳥取県学力向上推進プラン」を策定し、学力向上の取組を推進する。

目標（目指す姿）

◇子どもたち一人一人の関心意欲の向上・確かな学力の定着
◇子どもたちが「わかった」「できた」を実感できる授業づくり

鳥取県学力向上推進プラン　〔令和2年度版〕



主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

みんなで創ろう！ とっとりの学び

鳥取県の子どもたちが、さらに伸びていくための

とっとりの 授業改革 【10の視点】

知的好奇心の喚起

① 魅力的な課題・教材の提示
- 自ら問いを見出し、調べてみたい、みんなで考えてみたい課題や教材を提示する
- 学習への見通しを持たせる

② 体験的な学習の充実
- これまで学んだことのつながりを意識させる
- 地域の人・もの・ことなど日常生活とのつながりを意識させる
- 具体物や視聴覚教材を使用する
- 実験や作業を取り入れる

活用する力を育てる
言語活動 と 学習評価

③ 資料の活用
- 問題解決に必要な資料を使って調べたり、考えたりする学習を設定する
- 考えの形成のために情報を精査させる

④ 思考の整理
- 調べたことやわかったことをノートに書かせる
- 問題の解き方や考え方をノートに書かせる

⑤ 説明・発表の機会の充実
- 考え方や理由を筋道立てて説明する学習活動を設定する

⑥ 学び合う活動の充実
- ねらいをはっきりさせ、新しい考えを、みんなで生み出す活動を設定する
- 考えを広げたり深めたりする活動を設定する
- 意見交換や議論の場を設定する

指導と評価の一体化

⑦ 学習評価の推進
- 一人一人の学習状況や実現状況を把握する
- 個に応じた手立てや支援を行う

次につながる
振り返り

⑧ 学習を振り返る活動の設定
- 「振り返り」の時間を設定し、達成感・成就感を味わわせる
- 次の学習の課題やポイントがつかめるよう工夫する

⑨ 家庭学習と連動した学びの定着
- 学校で学んだことが家庭での復習や予習および自主的な学習につながるような支援に努める

⑩ 落ち着いてのびのびと学べる環境づくり（学びの集団・人間関係づくり）

「主体的・対話的で深い学び」と「とっとりの授業改革【10の視点】」との関わり

本県においては、「とっとりの授業改革【１０の視点】」を授業改善の視点として位置づけることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながると考えています。

主体的・対話的で深い学び	「とっとりの授業改革【１０の視点】」の中で関係の深い視点
＜主体的な学び＞ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。	❶ ❷ ❸ ❹ ❼ ❽ ❾ ❿
＜対話的な学び＞ 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。	❸ ❺ ❻ ❿
＜深い学び＞ 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。	❶ ❷ ❸ ❹ ❺ ❻ ❽ ❾ ❿

＜小学校＞算数大好き！プロジェクト

とっとりの授業改革【10の視点】重点項目

【目標】子どもたちが「わかった」「できた」を実感できる授業づくり

45分間で授業設計 『すべての授業を45分間で完結するためのタイムマネジメント』

★導入（前時の振り返り、課題の提示）の時間を短く！★自力解決や話合い活動の時間を調整！

見通しがもてる めあての提示

【10の視点①】
魅力的な課題・教材の提示

本時のねらいに対応した「めあて」（児童から見たゴールの姿）を設定する

・課題の提示の工夫
・既習事項を生かした「めあて」
・学習の見通しを児童と共有

興味・関心、主体性

十分な適用題

【10の視点⑦】学習評価の推進

適用題の時間を確保し（１０分以上）、すべての児童を「おおむね満足できる状況」に到達させる

・「めあて」に対応した「まとめ」
・ねらいに応じた適用題
・理解度に応じた手立ての工夫

達成感、成就感

次時につながる 振り返り

【10の視点⑧】
学習を振り返る活動の設定

児童に本時の学びを自覚させ、次時につながる振り返りを行う

・「めあて」に対応した振り返り
・視点を明確にした振り返り
・次の学びへの意欲を高める振り返り

次の学びへの意欲

すべての算数の授業を45分間で完結するために
→【10の視点②～⑥】を選択しながら、授業を設計する
ねらいに合わせて②～⑥を選択し、活動を絞り込み、45分間で確実に資質・能力を育成するための手立てとする。

＜中学校＞とっとりの授業改革【10の視点】重点項目

【目標】子どもたちが「わかった」「できた」を実感できる授業づくり

1単位時間または単元全体をとおして完結する授業

めあての提示

【10の視点①】魅力的な課題・教材の提示

本時のねらいに対応した「めあて」（生徒から見たゴールの姿）を設定する

・課題の提示の工夫　・既習事項を生かした「めあて」　・学習の見通しを生徒と共有

評価場面の設定

【10の視点⑦】学習評価の推進

具体的な評価規準に基づいて評価場面を設定し、生徒が「おおむね満足できる状況」に到達しているか把握し、到達させるための手立てを講じる（習熟度に応じた支援の充実）

・「めあて」に対応した「まとめ」　・理解度に応じた手立ての工夫

振り返りの実施

【10の視点⑧】学習を振り返る活動の設定

生徒に学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等を次の学習につなげられるように視点を設けた「振り返り」を行う

・「めあて」に対応した振り返り　・視点を明確にした振り返り　・次の学びへの意欲を高める振り返り

すべての授業を1単位時間または単元全体をとおして完結するために
→【10の視点②～⑥】を選択しながら、授業を設計する
ねらいに合わせて②～⑥を選択し、活動を絞り込み、1単位時間または単元全体をとおして確実に資質・能力を育成するための手立てとする。

新学習指導要領の趣旨を踏まえた国語の授業づくり

国語科は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目標としています。単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることが大切です。
「とっとりの授業改革【１０の視点】」と関連付け、国語の授業をより良くつくっていきましょう。

❶育成すべき資質・能力の明確化

関連▶【１０の視点①】
魅力的な課題・教材の提示

・学習指導要領を手がかりに、単元を通して育成すべき資質・能力を明確に捉える
・育成すべき資質・能力を意識して、単元全体の学習過程を構成する
・資質・能力の系統を把握し、前後の学年、他教科とのつながりを踏まえて指導する

❷言語活動を明確に位置付けた単元の構成

関連▶【１０の視点⑤⑥】
説明・発表の機会の充実
学び合う活動の充実

・言語活動の目的（ゴール）と見通し（プロセス）を子どもたちと共有する
・言語活動のモデルをつくって子どもたちに示す（構成、文字制限、音声等）
・言語活動をめぐって多面的な見方・考え方を共有できる対話を取り入れる

❸適切な評価規準と評価方法の設定

関連▶【１０の視点⑦⑧】
学習評価の推進
学習を振り返る活動の設定

・目標に対する評価規準と評価方法を明確にし、子どもの学習状況を計画的に見取り、記録に取る
・子どもたちの学びの状況を想定し、全員が「おおむね満足できる状況」に達成できるための手立てを講じる
・子どもたちが学びを自覚し、次の時間や単元につながる振り返りの充実を図る

新学習指導要領の趣旨を踏まえた小学校国語の授業づくり【実践編（文学的文章）】

「内容を読み取るだけ」「感想を言い合うだけ」に陥らず、文学的な文章を通して国語の資質・能力を確実に育成する授業づくりが必要です。育成すべき資質・能力を明確にし、適切な言語活動を選定し、指導と評価の一体化を図っていくことで、子どもたちの確かな読みの力と豊かな想像力を育みます。

４年　物語を読んで考えたことなどをリーフレットにまとめよう　　教材：「走れ」（東京書籍　４年上）

❶育成すべき資質・能力の明確化

単元を構成する際には、子どもの実態と学習指導要領を拠りどころにして、当該単元で育成すべき力を明確に把握しておく必要があります。〔知識及び技能〕〔思考力・判断力・表現力等〕〔学びに向かう力、人間性等〕の３つの観点から、単元目標を設定しましょう。
児童の実態と指導事項の系統を踏まえて指導しましょう。

【単元目標】
（１）文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる
（指導事項〔知識及び技能〕ク音読、朗読）
（２）登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる
（指導事項〔思考力・判断力・表現力等〕C読むこと　エ精査・解釈）
（３）言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

★学習過程に即した指導事項の重点化

C　読むこと	【第３学年及び第４学年の内容】
構造と内容の把握	イ　登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること
精査・解釈	エ　登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること
考えの形成	オ　文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと
共　有	カ　文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと

❷言語活動を明確に位置付けた単元の構成

単元を通して育成すべき力と、それぞれの言語活動がもつよさや特徴との整合性を考えて設定しましょう。
学習指導要領解説の言語活動例を参考にしましょう。

精査・解釈をするときは、どこで人物の気持ちが大きく変化したのか、どのように変わったのか、どうしてその変化が起きたのかを子どもが考えられるようにする必要があるな

★単元で取り上げる言語活動
言語活動例イ
詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動
↓
【言語活動】
人物の気持ちの変化を考えて読み，これまでの体験を基に、読んだ感想をリーフレット形式にまとめる。

物語についての感想、考え	変化した後の様子・気持ち	変化のきっかけ（変わった理由）	変化する前の様子・気持ち

場面の移り変わりとともに描かれる登場人物の気持ちが、どのように変化しているのかを具体的に思い描くことが大切です

★言語活動のモデルの提示
教師自身が、事前に言語活動を試行しておくことで、具体的なゴールのイメージをもつことができます。また、言語活動の目的と見通しを子どもたちと共有しましょう。

❸適切な評価規準と評価方法の設定

何がどのようにできたらよいのか、具体的な姿を明確にしておきましょう。子どもの学習状況を計画的に見取り、記録に取ることが大切です。子どもの学習状況に即して、全員が指導目標を「おおむね満足できる状況」に達成できるようにしましょう。

評価規準は、指導事項の文頭、文末の表現を変えることで作成することができます

★単元の評価規準
「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。

★評価方法

第二次の4時間目は、リーフレットの真ん中のページの記述を評価しよう

【おおむね満足できる状況】
(例)のぶよの気持ちが変わったのは、お母さんとけんじの「走れ」の声が重なったのを聞いたからです。自分が2人の仲直りのきっかけを作ることができたから、ビリになってもほこらしかったのです。

★【おおむね満足できる状況】に達成するのが難しい子どもの状況を想定しておき、手立てを考えておくことが大切です。
(例１)主人公の気持ちが大きく変わった一文を選ばせて、選んだ理由を問う
(例２)前後の場面の主人公の気持ちを比較させる

★振り返り
子どもたちが自分の変容を自覚し、学びの実感を得て次の学習への意欲をもつことができるよう、振り返りの充実を図りましょう。